ブルンジ月報（2020年11月）

主な出来事

1. 内政・外政

- 4日、ブルンジ政府が空港再開を発表
- 10日、ブルンジが仏語圏国際機関に復帰
- 20日、ブルンジ外務・開発協力省が国連事務総長特使の事務所を閉鎖
- 24日、ブヨヤ元大統領がAU上級代表を辞職
- 30日、ンダイシミア大統領が国連アフリカ大湖地域特別代表と面談

1. 内政・外政

（1）ブルンジ政府が空港再開を発表（4日）（The East African）

ブルンジ政府が、11月8日に空港を再開すると発表した。ブルンジに入国・出国する旅行者は、搭乗72時間前に検査を受検し、コロナ陰性証明書を提示する必要がある。

（2）ブルンジが仏語圏国際機関に復帰（10日）（The East African）

4日、仏語圏（フランコフォニー）国際機関の常任理事会で、ブルンジが同機関に復帰すると発表された。ブルンジは独立から8年後の1970年に同機関に加盟したが、2015年の政治混乱を機に国際社会との関係が悪化し、ブルンジ国内で人権侵害があるとして複数の制裁が科せられた。同機関についても2016年4月以降、ブルンジ国民に直接裨益するプログラムを除き、ブルンジの加盟国としての権利を停止していた。

（3）ブルンジ外務・開発協力省が国連事務総長特使の事務所を閉鎖（20日）（IWACU）

17日、ブルンジ外務・開発協力省は国連事務総長に対し、口上書にて事務総長特使の事務所を2020年12月31日に正式に閉鎖すると通知した。同口上書において、政治、安全保障、人権の観点から、同事務所の存在理由はすでに無くなっていると説明。また、ブルンジは、平和、治安、政治的安定を既に取り戻しており、ブルンジ政府は、国連等の国際機関は、ブルンジの経済社会発展のために必要なものであり、ブルンジ政府とともに歩むという点において唯一の存在意義を持つと考えていると説明した。

（4）ブヨヤ元大統領がAU上級代表を辞職（24日）（RFI）

AUマリ・サヘル地域上級代表のブヨヤ（Mr. Pierre BUYOYA）元ブルンジ大統領が、8年間務めた同職を辞職した。同氏が自身の後任でありブルンジで初めて民主的に選出されたンダダイエ（Mr. Melchior NDADAYE）大統領を暗殺したとして、ブルンジでの欠席裁判で終身刑判決が出されたことを受けたもの。同氏の辞職は、同氏が法廷闘争に専念するためとされるが、AU関係者によれば、AU

が加盟国への体裁を保つために両者合意のもと決定されたものであり、AUも辞職を了解済み。同氏は、今後マリを離れ、アフリカの第三国に拠点を移す予定。

(5) **ンダイシミア大統領が国連アフリカ大湖地域特別代表と面談（30日）**

(The East African)

24日、ンダイシミア（Gen. Evariste NDAYISHIMIYE）大統領が、国連のファン（Mr. Huang Xia）アフリカ大湖地域事務総長特別代表とブジュンブラで面談し、（ルワンダが匿っているとブルンジが考える）2015年のクーデター陰謀者の引渡しをルワンダに求めると発言した。ファン特別代表はンダイシミア大統領に対し、ルワンダは引渡しの用意があるものの、国際法に則った裁判手続を行うため、第三国への引渡しを考えていると述べた。これに対し、ンダイシミア大統領は、ルワンダとブルンジは兄弟姉妹国であり、同じ言語で問題を解決することができるため、仲裁者の必要はないと述べた。本件に関して、両国の法務大臣が12月に会談する予定。

（了）